

休校中も学びを止めない。 学校と自宅をつなぎ、 生徒と保護者があんしんできる環境を

— 熊本市立北部中学校

突然の休校でも、“LTEタブレットだから、 ためらうことなく持ち帰りできた”

2020年3月、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けて、全国の小中学校で一斉に実施された臨時休校措置。多くの子どもたちが自宅学習となり、学校も前代未聞の出来事に対応を迫られました。子どもたちの健康、あんしん・安全、学びの機会を守るために何ができるか。熊本市内の各学校で、限られた台数のタブレットを活かして試行錯誤の取り組みが行われています。

家庭のネットワーク環境に左右されず、LTEタブレットの持ち帰りを決断

2020年2月28日、安倍首相の要請により、熊本市の小中学校も3月2日から休校になりました。同市では子どもたちの学びを止めないよう、まずは子ども目線で使えるオンラインによる学習コンテンツの情報をホームページに掲載。そして翌3日には、小学5年生と中学2年生を対象に、LTEタブレットの持ち帰りを各学校に通知しました。この学年は学習内容が多いため、同市が導入していたデジタルドリル教材を使って家庭学習に取組める環境を整えたのです。同市教育センター 教育情報室 室長 本田裕紀氏は「タブレットの持ち帰りは、家庭の環境に左右されるのですが、何もためらわずに持ち帰りを決断でき、改めてLTEのメリットを感じました」と述べています。



その後、実際にタブレットを活用した自宅学習を始めたところ、デジタルドリル教材の活用だけでなく、市内の多くの学校で、授業支援システムやオンライン会議システムを活用して、子どもたちと双方向にやり取りするクラスが現れました。毎日の健康状態を教師に伝えたり、遠隔授業に取り組んだり、場所にとられない学びのチャレンジが生まれています。

熊本市立北部中学校

〒861-5521 熊本県熊本市北区鹿子木町1

URL : <http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/sch/j/hokubujh/>

[取材協力] 熊本市立北部中学校



熊本市教育センター 教育情報室 室長 本田裕紀氏

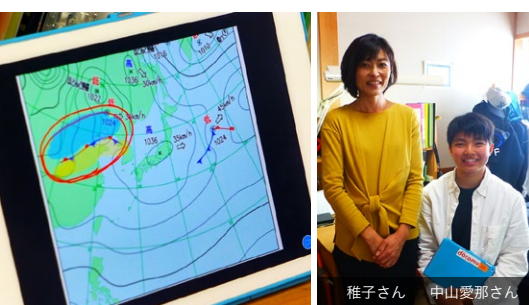
健康観察の提出と遠隔授業で自宅と学校をつなぎ、 休校中も“あんしん”できる環境に

教師と生徒がつながる双方向の遠隔授業を実施

熊本市立北部中学校では、授業支援システムを活用した「健康観察の提出」とオンライン会議システムを活用した「遠隔授業」に取り組んでいます。生徒たちは朝9時までに、その日の健康状態や好きなメッセージを書き込んで教師に送ります。

遠隔授業では、中2理科で天気の実習を実施。教師2人が授業進行と生徒の進捗確認にわかれて進めました。まずは基本内容について、教師が板書のスライドを生徒たちの画面に共有しながら説明。教師が「この前線に気をつけて」とマークすれば、同じように生徒の画面にも反映されます。

続いては、授業支援システムを活用して天気図が配信され、自分で気圧配置を考える学習へ。生徒たちは、わかった人は「青」、わからない人は「赤」で意思表示し、教師たちは全員の作業を手元のタブレットで確認します。最後は回答を発表する生徒の画面を全員で共有し、意見交換をして終わりました。



学校とのつながりで生活ペースも乱れず、生徒と保護者があんしんできる毎日に

実際にこの遠隔授業を受けた、2年生の中山愛那さんは、「タブレットで健康観察を送ったり、遠隔授業を受けたりと休校中もよい習慣で過ごしています。友達や先生とつながるのもあんしんで、いつもとは違うコミュニケーションを楽しんでいます」と話してくれました。また、保護者の中山稚子さんも、「休校中は子どもたちが時間を持て余し、生活が乱れるのを心配していたのですが、タブレットで自宅学習ができるとよい生活リズムが保てます」とお話をいただきました。自宅と学校がつながることで、子どもや保護者にもあんしんが生まれています。

日常的なICT活用で培ったスキルで、学校の学びの枠を越えたい

知っている先生や友達とつなぎ、あんしんできる日常を再現する

遠隔授業を実施した池田優平教諭と真金竜樹教諭は、生徒たちの「日常のつながり」を再現できるICT環境に価値を感じています。「休校中は当初、オンライン動画を使った自宅学習を勧めていましたが、それだと受け身。知っている先生や友達の考えに触れる機会を提供できないかと考え、遠隔授業に取り組みました」と真金教諭は経緯を話してくれました。生徒たちが、自分ひとりで自宅学習を続けるのは限界があり、学校で学べる環境を与えたいというのです。

池田教諭も「生徒からは“先生を見てあんしんする”、“友達の意見が聞けてよかった”という感想をもらっています。学習面も大切ですが、遠隔でのやり取りが生徒たちの精神的なつながりや支えになっているのが大きい」と話してくれました。今後はこうした環境を活かして、普段の授業でも外部とつながるような学習を実践していきたいといいます。



普段のICT活用があるからこそ、実践できた遠隔授業

北部中学校の上野正直校長はこのような取り組みについて、毎日の授業でICT活用しているからこそ実践できたといいます。「本校は各教科等の学習や生徒会活動等を通じて、子どもたちが主体的、対話的にタブレットを使う学習を重視してきました。今回の休校では、そこで培った・力が活かされると考え、持ち帰りも積極的に進めました。もちろんLTEタブレットで全員がつながるという環境が大前提です」(上野校長)

研究主任の田中隆太郎教諭は「遠隔授業を車の中で見ている生徒もいて、生徒たちが自発的に学習に向えるようになってきました。自立心が芽生えてきていると感じます」と手応えを語ってくれました。北部中学校では今後も、こうした環境を活かし学校の枠を越える学びに挑戦していきたいといいます。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)
受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場ICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/



※本チラシの内容は2020年3月取材時点のものです。